

松下幸之助記念志財団 研究助成
研究報告

(MS Word)

【氏名】瀬川 裕美

【所属】(助成決定時) 京都大学大学院 医学研究科医療経済学分野 博士後期課程

【研究題目】ブータン王国における国民幸福量と生活習慣病予防の探索
ーフィールド調査と全国規模調査の分析を通してー

【研究の目的】(400字程度)

「幸福と健康」は人類共通の課題であり、健康は幸福の重要な要因であることは明白である。しかし、健康を守るためにどの程度の投資を行い、どのような行動変容が必要であるのか、さらにその行動変容過程が人々の幸福にどのような影響を与えるのかは明らかではない。本研究はブータン王国において幸福の価値観、生活習慣病の実態及び社会文化背景要因を多角的に分析し、人々の幸福と健康に貢献することが目的である。

糖尿病や肥満、心血管性疾患の一部は「生活習慣」がリスク因子であると指摘されているが、「生活習慣」は人々の生活様式・社会的背景・文化・歴史・政治など多くの要因に影響を受けている。このため、「生活習慣」が「幸福」にどのように寄与しているのかを探索し、地域差や社会文化背景なども検討した上で、幸福を目標にした生活習慣病予防対策の検討を行う。

【研究の内容・方法】(800字程度) 【結論・考察】(400字程度)

本研究プロジェクトは量的調査と質的調査を組み合わせ、それぞれの利点を生かし欠点を補う研究デザインを用いた。2019年10月から2020年9月まではブータン王国における政府のデータ解析を中心に研究を進めた。2017年に申請者が現地に住み込み、現地の人々で行った包括的なフィールド調査研究と政府の大規模データ解析を組み合わせることで、実態の課題に即した解決策が導き出す。通常、フィールド調査や質的調査はその現場に合わせた深い情報を得ることが出来る一方で、代表性や一般化可能性を欠くことが多い。他方、全国規模の量的調査は国全体の代表性を確保し、政策に反映しやすいが、構造化された設問調査では地域の文化や個々の背景、回答の真意等の現場に潜む本来の課題を反映することが難しい。

本報告においては全体の量的調査の一部にあたる生活習慣病調査(NCDSTEPSURVEY)と国民総幸福量(GNH)調査のデータ解析結果を中心に報告する。記述統計、多重比較検定、ロジスティック回帰分析を実施した。自由記載については、質的内容分析を実施した。

- 1) ブータン王国における、NCDSTEPSURVEYの二次データ解析を実施。2017年に実施したフィールド調査で示唆された、知識・認識・行動のギャップについて高血圧の予防行動である減塩に注目し量的分析を行った。どの社会背景要因においても知識や認識はあっても減塩は難しく行動とのギャップがあることが明らかとなり、フィールド調査の結果を支持した。
→知識認識行動のギャップを埋めるための対策の必要性、もしくは認識がなくても予防行動がとれる対策の必要性が示唆された。
- 2) ブータン王国における、NCDSTEPSURVEYの二次データ解析を通して、高血圧の罹患状況・血圧測定経験の状況を社会背景別に分析した。調査を通して高血圧であると判断された人のうち28%以上が血圧を測定したことがないことが明らかとなった。また、一般的に高血圧は男性に罹患リスクが高いが、婚姻状況別に分析すると離別や死別を経験した女性の罹患リスクが高いことが明らかとなった。
→血圧測定機会がない人々にも測定機会が得られるような対策が必要である。また社会的に女性が

配偶者と離別・死別した場合に脆弱になることから、社会的ジェンダー問題の解決なども取り組んでいく必要がある。

- 3) ブータン王国における第三次国民総幸福量調査の二次データ解析を通して、性別婚姻状況別の精神的健康状態について多重比較検定を行った。主観的幸福感については性別による有意差はなかったが、主観的健康感や満足感、GHQ12 尺度においては、女性・離別や死別を経験した人が、有意に精神的健康状態が悪かった。また自殺企図の自由記載内容について質的内容分析を行い、家族関係に起因するものが一番多い結果となった。
→自殺企図の予防については家庭問題の解決が重要であり、社会的調和や絆を重んじる国策と同時に、調和や絆を重んじる社会であるからこそ表面化しにくく深刻化しやすい家庭問題に介入できる NGO などの活動強化も必要である。